

新型インフルエンザ対策に関する行動計画

2007年6月

エクソンモービル・ジャパングループ

エクソンモービル（有）

東燃ゼネラル石油（株）

極東石油工業（株）

目 次

1. 行動計画の目的と策定方針
2. 危機管理体制
 - (1) 新型インフルエンザ発生前
 - (2) 新型インフルエンザ発生後
3. 情報収集・周知
 - (1) 新型インフルエンザ発生前
 - (2) 新型インフルエンザ発生後
4. 事業運営及び従業員等への感染予防のための措置
 - (1) 被災想定
 - (2) 各フェーズでの対応事項

別紙

1. 用語の定義
2. フェーズ区分
3. 検討体制組織図と情報連絡経路（平時）
4. 対策本部組織図と情報連絡経路（有事）

1. 行動計画の背景及び策定方針

(1) 目的

インフルエンザの世界規模の流行は平均して1世紀で3回発生していることは、過去300年以上の歴史が証明している。H5N1と命名された新たに現れたインフルエンザは、継続的なヒト・ヒト感染の能力を獲得する可能性があることが知られている。

次に出現するヒト・インフルエンザ・ウィルスは下記を引起す十分な感染力と病原性を持つと予想される。

- 商業活動と旅行の混乱がある
- あらゆる国で医療インフラが酷使される
- あらゆる国で燃料供給とエネルギー生産は非常に困難になる
- 国によって異なるが、政府による検疫・隔離、戒厳令、社会秩序の崩壊がある

このような事態に対し、本行動計画は「事業者・職場における新型インフルエンザ対策ガイドライン（新型インフルエンザ専門家会議、平成19年3月26日）」及び「エクソンモービル・グローバル・ガイドライン（平成18年3月31日）」に基づき、新型インフルエンザが大流行した際にも、従業員とその家族等の健康と安全を確保することを最優先しつつ、社会機能の維持を継続する観点から石油製品を安定供給するために行うべき対策を定め、的確かつ迅速な対策の遂行に資することを目的とする。

なお、新型インフルエンザの流行は必ずしも予測されたように展開するものではなく、発生する事態も様々であると予想されることから、時々の情勢の変化を踏まえて随時、本行動計画を見直し、修正を加える。

(2) 計画策定の方針

継続的なヒト・ヒト感染による世界的なインフルエンザ発生の場合、会社（日本に本拠地を置くエクソンモービル/東燃ゼネラル石油とその系列会社を指す）は下記事項を実施できるようにしなければならない。

- 従業員とその家族の健康と安全を確保し、同時に必要不可欠のサービスと製品の配送を最大にすることに焦点を絞って、既存の事業継続計画と緊急事態対応プロセスにより迅速にかつ効果的に対応する
- 輸送燃料と発電燃料の供給者はこれら重要製品を配送できるという社会の期待を満たす
- 限られた抗ウィルス薬配分の優先順位を決める
 - － 国外在住者の家族と業務上の旅行者に対する暫定的な化学的予防
 - － 急性治療のための投薬
- 既存の緊急事態の準備・対応プロセスにより、以下の件を管理する、例えば、
 - － リードカンントリーマネージャーは国内の対応に直接関わる
 - － 国内の対応は全ての部門・事業所で一貫している
 - － 政府の対応計画を支持する：政府との調整と支持無しでは会社の事業継続計画は成功しない
 - － 必要不可欠の業務／事業所には感染拡大の間も人員を配置する

- 補償と医療への配慮を提供する
- 必要不可欠の要員／職位を、代行者を含め明確にする
- 18ヶ月の間に2回ないし3回ある病気流行の波の間も操業を継続する

新型インフルエンザは流動的で予測が困難であり、本ウィルスの毒性(致死率)と病原性(感染力)、流行の頻度、全世界での準備状況、政府の活動、パニックの程度などが重要な変数である。エクソンモービルでは、対応計画作成と実効を目的として以下の3つの世界的流行のフェーズを定めている。エクソンモービル・ジャパングループでは、この新型インフルエンザ準備・対応計画の中でその定義を使用する。

尚、世界保健機構(WHO)/日本政府のフェーズ分類との比較を別紙2に示した。

- プレパレーション・フェーズ(準備段階)

新型インフルエンザ・ウィルスのヒトへの感染がある。しかし、ヒトからヒトへの感染は非常に稀、又は遠隔地に限定されている。
- ホットスタンバイ・フェーズ(発生直後の段階)

アジアパシフィック地域でヒトからヒトへの感染が継続し発生しているが、国内の脅威ではない。社会不安や政府の規制の可能性がある。
- クリティカル・オペレーション・フェーズ(操業が厳しい段階=感染拡大の段階)

国内でヒトからヒトへの感染が継続して発生し脅威となっている。重大な社会不安や政府の規制がある。

2、危機管理体制

(1) 新型インフルエンザ発生前：プレパレーション・フェーズ

- ①インフルエンザ発生前の準備段階では、産業医、広報、人事及び環境安全の部門が中心となり、各部門/事業所から選任されたメンバーによって構成される「新型インフルエンザ・ワーキング・グループ」が各部門の対策準備推進、従業員等への周知と状況をモニターする(別紙-3)。当ワーキンググループの役割は、緊急対策本部(JESG: Japan Emergency Support Group)が立ち上がった時点で当対策本部に移管される。
- ②必要に応じて訓練を実施する。

(2) 新型インフルエンザ発生後：ホットスタンバイ&クリティカル・フェーズ

- ①国内外での感染状況やWHO/関係官庁からの情報を勘案して、対策本部長(リード・カンントリー・マネージャー:エクソンモービル・ジャパングループ代表)が必要と判断したときは緊急対策本部を立ち上げる(別紙-4)。
- ②対策本部長の指揮・統括のもと、対策本部を構成する各班及び各事業部門はそれぞれ作成した行動計画に基づいて対策を推進する。
- ③対官庁を含む社内外の緊急連絡体制は、各部門及び本社環境安全部で作成・管理している既存の部門及びグループ全体の緊急連絡網を使用し伝達することとする。

3. 情報収集・周知

(1) 新型インフルエンザ発生前：プレパレーション・フェーズ

- ①国内外の新型インフルエンザに関する情報を収集し、関係省庁、関係団体、地方自治体等と情報交換を行う連絡経路を明確にする。
- ②従業員に遅滞なく周知する方法として、エクソンモービル・ジャパングループの新型インフルエンザ専用のイントラネットを構築し、従業員誰からでもアクセスでき 質問に対し回答する仕組みを作る。
- ③従業員の新型インフルエンザに対する認識や感染防止に関する意識・知識を高めるため、「新型インフルエンザ対策従業員教育」を各部門で実施する。教育の対象者は、社外出向の従業員、同じ事務所で働く協力会社及び派遣の社員、海外からの滞在従業員を含む。

主な情報の入手先

- ① 社内の情報：新型インフルエンザ専用ウェブサイト
エクソンモービル http://empa.ap.xom.com/InsideEM/pandemic_flu/index.htm
エクソンモービル・ジャパン (現在構築中)
EMJ 医務産業部 http://empa.ap.xom.com/xomjhome/MOH/MOH_HomePage
- ② 世界の情報
WHO <http://www.who.int/en/>
国際疾病センター http://www.dcc.go.jp/dis_center/project_bird_infl.html
外務省海外安全情報 http://www.anzen.mofa.go.jp/kaian_search/sars.asp
厚生労働省検疫所 <http://www.forth.go.jp/>
- ③ 国の情報
厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou.html>
国立感染症研究所 <http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/index.html>
労働者健康福祉機構 <http://www.rofuku.go.jp/>
検疫所 <http://www.forth.go.jp>
外務省「海外安全ホームページ」 <http://www.anzen.mofa.go.jp>
- ④ 都道府県・保健所・市町村の情報
各都道府県・保健所・市町村のウェブサイト

(2) 新型インフルエンザ発生後：ホットスタンバイ&クリティカル・フェーズ

緊急対策本部は、アメリカ本社の緊急対策チームとの連絡を密に実施するとともに、国内外の感染状況に加え、医療機関・社会インフラ・関係会社等の運営状況の情報を収集する。収集した情報は、必要に応じて、計画の見直し、対策本部の活動に役立てるとともに、各部門の緊急連絡網や社内イントラネット等を活用して、従業員に迅速に周知する。

4. 事業運営体制

(1) 被災想定

事業継続計画の策定にあたっては、政府ガイドラインでは、国民の25%程度が罹患する可能性があり、感染流行の波は約2ヶ月間続き繰り返すことが予想されており、感染者や接触者の観察期間（10日間自宅待機）等の記載があるが、エクソンモービルのガイドラインでも、25%の従業員が影響を受け、6-8週間続くことを前提にしており、これらをベースに計画を策定する。

(2) 各フェーズでの対応事項

従業員等への感染予防のための措置を含めた各フェーズでの対応事項を 別添-3 に示す。
尚、各部門/工場でも、本計画を基に詳細な計画を作成する。

1. 用語の定義

- ① 新型インフルエンザ インフルエンザウィルスが変異し、これまで人に感染しなかったウィルスが人へ感染し、さらに人から人へ感染する病気。
- ② リードカントリー・マネージャー エクソンモービル・ジャパングループ全体の代表。Lead Country Manager を略し「LCM」と呼ばれる。
- ③ 咳エチケット インフルエンザ患者やそれが疑われる患者に対して推奨される感染対策
- ・咳、くしゃみの際はティッシュなどで口と鼻を押さえ、他の人から顔をそむけ1m以上離れる。
 - ・呼吸器系分泌物（鼻汁、痰など）を含んだティッシュをすぐに蓋つきの廃棄物箱に捨てられる環境を整える。
 - ・咳をしている人にマスクの着用を促す。（マスクはより透過性の低いもの、例えば、医療現場にて使用される「サージカルマスク」が望ましいが、通常の市販マスクでも咳をしている人のウィルスの拡散をある程度は防ぐ効果があると考えられている。一方、健康人がマスクを着用しているからといって、ウィルスの吸入を完全に予防できるわけではないことに注意が必要である。）

2. フェーズ区分

WHO、日本政府 及び エクソンモービル・グループの比較

WHO（世界保健機関）新型インフルエンザ対応のクラス分け									
発生前		発生後				感染拡大			
第1段階	第2段階	第3段階		第4段階		第5段階		第6段階	
新型インフルエンザのウイルスは、まだ人に検出されていない。	動物のインフルエンザウイルスが、人への弊害の実際リスクをもたらす。	人が新型ウイルスに感染する。しかし、人から人に感染していない。		限られた人の小さな集団で人から人への感染がある。		大きな集団ではあるが、人から人への感染はまだ地域に限定している。		一般住民に感染が増加し継続する	
日本政府の新型インフルエンザ対応のクラス分け									
発生前		発生後				感染拡大			
第1段階	第2段階	第3段階		第4段階		第5段階		第6段階	
	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B	A B
エクソンモービルの新型インフルエンザ対応のクラス分け									
準備段階 新型インフルエンザウイルスの人への感染がある。しかし、人から人への感染は非常に稀、又は遠隔地に限定。				発生後（*）		操業が厳しい段階 国内で人から人への感染が継続して発生し、脅威となっている。重大な社会不安や政府の規制がある。			

（*）発生後：AP地域で人から人への感染が継続し発生しているが、国内の脅威ではない。社会不安や政府の規制の可能性はある。

区 分	内 容
フェーズ 1	ヒトから新しい亜型のインフルエンザは検出されていないが、ヒトへ感染する可能性を持つウイルスが動物に検出
フェーズ 2A	ヒトから新しい亜型のインフルエンザは検出されていないが、動物からヒトへ感染するリスクが高いウイルスが動物に検出（国内非発生）
フェーズ 2B	ヒトから新しい亜型のインフルエンザは検出されていないが、動物からヒトへ感染するリスクが高いウイルスが動物に検出（国内発生）
フェーズ 3A	ヒトへの新しい亜型のインフルエンザ感染が確認されているが、ヒトからヒトへの感染は基本的にない（国内非発生）
フェーズ 3B	ヒトへの新しい亜型のインフルエンザ感染が確認されているが、ヒトからヒトへの感染は基本的にない（国内発生）
フェーズ 4A	ヒトからヒトへの新しい亜型のインフルエンザ感染が確認されているが、感染集団は小さく限られている（国内非発生）
フェーズ 4B	ヒトからヒトへの新しい亜型のインフルエンザ感染が確認されているが、感染集団は小さく限られている（国内発生）
フェーズ 5A	ヒトからヒトへの新しい亜型のインフルエンザ感染が確認され、大きな集団発生が見られる。パンデミック発生のリスクが高まる。（国内非発生）
フェーズ 5B	ヒトからヒトへの新しい亜型のインフルエンザ感染が確認され、大きな集団発生が見られる。パンデミック発生のリスクが高まる。（国内発生）
フェーズ 6A	パンデミックが発生し、世界の一般社会で急速に感染が拡大している。（国内非発生）
フェーズ 6B	パンデミックが発生し、世界の一般社会で急速に感染が拡大している。最初の流行を第1波とし、その後の小康状態、第2波を含めてパンデミック期とする。（国内発生）

日本政府の区分

新型インフルエンザ
発生前

新型インフルエンザ
発生直後

新型インフルエンザ
拡大時

3、検討体制組織図と情報連絡経路（平時）

新型インフルエンザ・ワーキング・チーム --- 別添-1 参照

4、対策本部組織図と情報連絡経路（有事）----- 別添-2 参照